

第2回ヘルスコミュニケーション学記念セミナー

順天堂大学大学院ヘルスコミュニケーション学コース 開設記念 / 香川由美さん東京大学総長賞受賞記念

2021年 **5月15日** 土曜日 13:00 ~ 17:30

参加費 **無料** 定員 **300名**

ZOOM (オンライン) 開催

2021年4月に、順天堂大学大学院医学系研究科が、医療者と患者間のコミュニケーションを支援する医療通訳者の養成を目的とした「ヘルスコミュニケーション学コース」を開設することになりました。また、2019年度まで東京大学大学院医療コミュニケーション学分野の博士課程に在籍されていた香川由美さんが、在学中の活動を通して社会に貢献したことが認められ、2019年度東京大学総長賞を受賞されました。つきましては、順天堂大学大学院ヘルスコミュニケーション学コースの開設と、香川由美さんの東京大学総長賞受賞を記念し、第2回ヘルスコミュニケーション学記念セミナーを開催いたします。セミナーでは、新型コロナの外出自粛の呼びかけでは、「知事」、「専門家」のメッセージよりも「現場の医師」のメッセージの方が効果大きいという衝撃的な事実を立証し、朝日新聞、毎日新聞等でも大きく報道された当教室の奥原剛准教授の講演も併せて行います。是非、ご視聴いただけますようお願いいたします。

演題

新型コロナ下の行動変容のコミュニケーションで「何を」「どう」伝えるか

演者：奥原 剛

東京大学大学院 医学系研究科 医療コミュニケーション学分野 准教授
大学病院医療情報ネットワークセンター 副センター長
帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 非常勤講師



関心テーマは公衆衛生分野の行動変容を促す説得的コミュニケーション。健康・医療にかかわる情報を、より分かりやすく伝え、より良い意思決定、行動を支援するための研究・教育に従事。自治体、健康保険組合、医療機関等でこれまで約2000人に対し、分かりやすく効果的な保健医療情報を作成するための研修、コンサルティングを提供。

著書に『実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション』（大修館書店）。

演題

患者の語りを社会に活かす～NPO活動と医学教育の橋渡し～

東京大学総長賞受賞記念講演

演者：香川 由美

東京大学医学部附属病院特任研究員、東京工業大学 非常勤講師



1型糖尿病の患者当事者としての体験をもとに、2011年に有志と共にNPO法人患者スピーカーバンクを設立し、患者や障がい者が教育機関や企業でみずからの体験を語る活動を展開。その活動が朝日新聞、読売新聞等の大手メディアで注目される。同法人で2016年から2019年まで理事長を務めた。

医学教育における“Patient storyteller”（患者講師）の役割をテーマに研究に取り組む。

東京大学、東海大学、大手製薬企業等での講演多数。

演題

順天堂大学大学院ヘルスコミュニケーション学コースの概要と将来的展望

順天堂大学大学院ヘルスコミュニケーション学コース開設記念講演

演者：大野 直子

順天堂大学 国際教養学部・大学院医学研究科 准教授



帝京大学医療共通教育研究センター講師を経て、2015年より順天堂大学国際教養学部講師、

2018年より順天堂大学医学研究科併任、2020年4月より現職。専門は医療コミュニケーション、

医療通訳。2016年～2019年 Critical Link International アジア担当理事、2020年4月より

日本ヘルスコミュニケーション学会 運営委員 代議員。

主催：東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学分野

共催：順天堂大学大学院医学研究科ヘルスコミュニケーションコース

後援：日本ヘルスコミュニケーション学会

参加お申込み、お問い合わせはホームページをご覧ください

<https://www.umin.ac.jp/hc/seminar2021>

